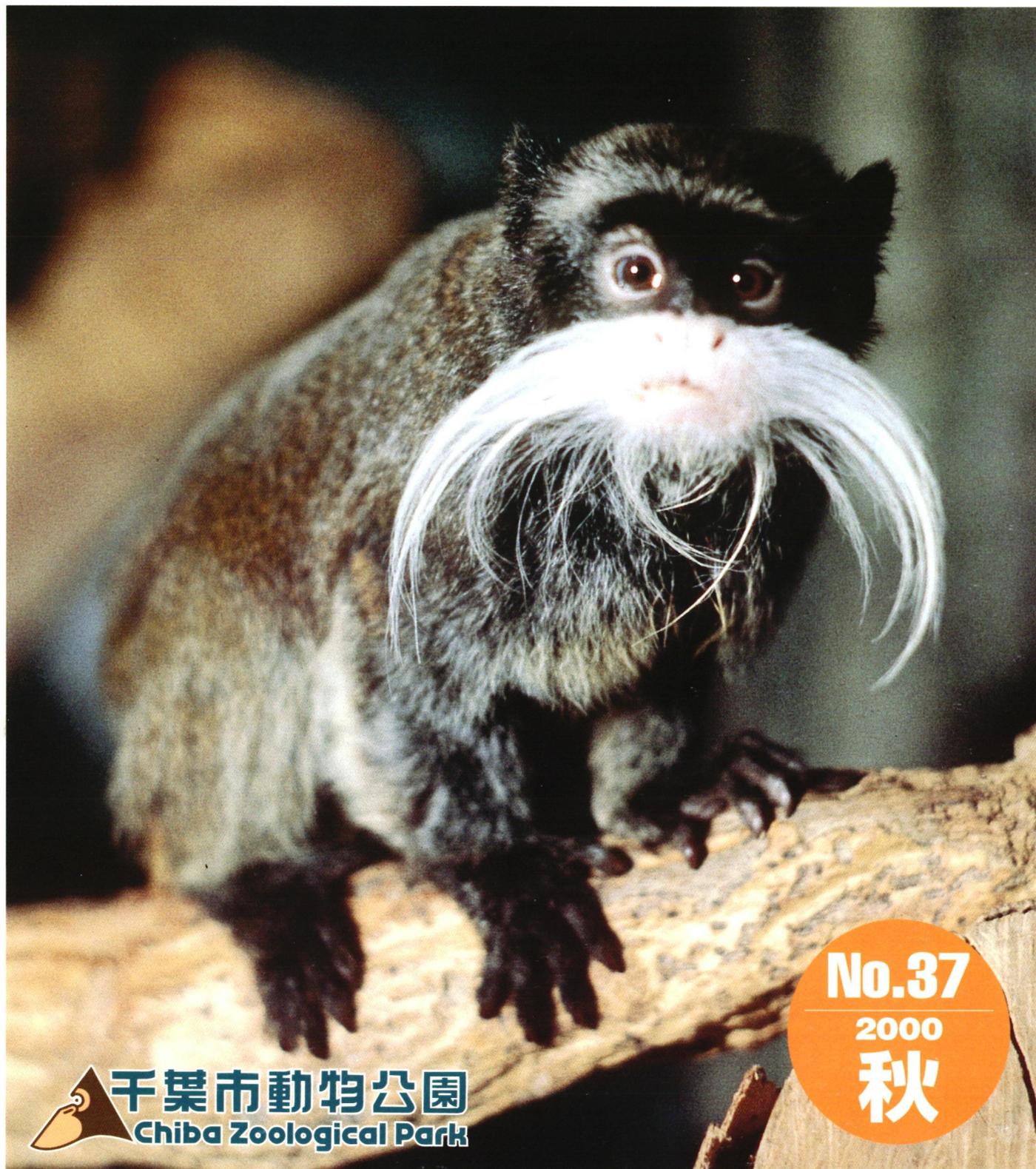


どうぶつこうえん ニュース



No.37

2000

秋

トピックス

シマウマのブリーディングローン

当園から伊豆バイオパークへ今年6月5日にブリーディングローン（共同繁殖）でハートマンヤマシマウマを1ペア搬出しました。このペアの間では、1992年、93年、95年に出産がみられましたがそれ以降は、ペアリングをしないで現在に至っています。

動物園では、動物の繁殖は大きな目的の1つです。しかし、飼育スペースは限られており、そこで繁殖を継続するためにも動物園相互の協力で移動（搬入・搬出）がおこなわれています。

以前は動物の移動によってその動物の所有権の移転も伴う点が障害となり、動物の移動が阻まれる場合が過去に多くありました。つまり高価な動物の移動が所有権という足枷^{あしがせ}があるため、簡単には移動できないという実情でした。それを解決したのがブリーディングローンという方法で、所有権を残したまま動物の移動を実現させた、現在最もよく用いられている方法です。これにより、多くの希少動物の繁殖に大きく貢献していると言えます。

手順としては、相手先との交渉をおこない、その後、公文書のやりとりをし、貸借契約を締結する必要があります。この方法の注意点として、貸借期限が設定さ



れるため、期限内に繁殖が成功しない場合、契約解除の可能性もあります。また、契約更新を依頼する場合は、期限内に手続きを終了させ、年1回程度の繁殖計画進行状況を報告することが義務付けられています。

伊豆バイオパークでは、雄1頭、雌3頭を飼育しており、当園から移動した個体とペア・群れ作りを行う予定です。早くかわいい赤ちゃんの姿が見られることを願っております。

石井 信一（Shinichi Ishii）

目次

CONTENTS

表紙【エンペラータマリン】	①
トピックス	
【シマウマのブリーディングローン】	②
特集【サマースクール】	③
飼育レポート【団体指導について】	④・⑤
動物公園の動物⑦【イワドリ】	
飼育よもやま話【偏食のオランウータン】	⑥
動物公園日誌から【'00.4/1～'00.7/31】	⑦
編集後記	
裏表紙【ニワトリ（プラマ）】	⑧

表紙の動物説明 エンペラータマリン

小さな体の割りにとても立派な鬃をはやした顔立ちが、思わず笑いをさそうエンペラータマリンは、ペルー南東端、ボリビア北西部、ブラジル中西部などアマゾン河上流のごく限られた地域に生息しています。森林に10頭前後の家族集団で生活し、果実、樹液、小動物などを餌として、生まれた子は母親だけでなく父親や兄弟など家族で世話をします。また、セマダラタマリンと縄張りを共有し、混群をつくって行動するという変わった習性を持っています。集団で生活するため毛や尻尾を立てたりするディスプレイや匂いづけ、毛づくろい、鳥の声のような複雑な音声など様々な方法でコミュニケーションをとっています。

秦 舜二（Shunji Hata）

動物飼育数

平成12年7月末現在
Classified number of animals
as of 31. Jul. 2000

哺乳類	54種245点	両生類	0種 0点
鳥類	82種317点	魚類	0種 0点
爬虫類	4種 20点	総計	140種582点

特集

サマースクール

動物園の主な役割には、教育普及、自然保護、レクリエーション、研究の4つがあります。

当園では教育普及の一環として、小学生を対象に「サマースクール」を毎年7月下旬（3日間）に開催しています。初日が1・2年生、2日目が3・4年生、3日目は5・6年生です。各日共定員40名で、今年は7班に分かれ、各班ごとに2~4名の飼育係の指導のもとで、獣舎の清掃から餌の用意まで行い、動物に関するさまざまな知識を各班ごとに創意工夫したテキストや教材を用いて、楽しみながら学んでもらいます。

内容の一部を紹介すると、

- ★ 粘土、ペーパークラフト、ベニヤ板を使って動物を作り、また、色を塗ることにより動物たちをきめ細かく観察します。
- ★ 動物のウンチの形、色、固さ、中身を観察することにより、食生活との関連性を学びます。
シマウマ、ニホンザルなど一見みな同じように見える
- ★ 動物の個体個々の顔写真を見て、群れの中から探す個体識別の方法を学びます。
- ★ 動物たちの食料庫であり厨房である飼料センターで実際に餌作りをし、どんな動物がどんな餌を食べるのかを学びます。

以上ほんの数例ですが、動物たちそれぞれが素晴らしい能力、機能的な身体を持ち、同じ種類でもそれぞれ顔が違い、個性や癖、好物等があり、仲間との会話の中で生きていることがわかってくると思います。

さらに、肝炎やエイズなど感染症の研究に貢献してきたチンパンジーを始め、多くの動物たちが我々人間のため役立っているのに、一方では多くの野生動物が、環境破壊、密猟等により絶滅の危機に瀕していることを、サマースクールをとおして知ってもらい、自分たちの身近な鳥や昆虫の見かた、接しかたを学んでほしいと思います。

夕方、子供さんがサマースクールから帰ってくるやいなや、ちょっと得意げな顔で、「ねえ！お母さん聞いてよ。ヨーロッパパイソンのテツはおじいさんでねえー、…etc」というような光景が見られればよいと思います。

佐藤 幹雄 (Mikio Sato)



「団体指導」について

子ども動物園がリニューアル工事のため平成12年4月2日をもちまして閉鎖されております。リニューアルオープンは平成13年秋の予定で、ご来園の皆さまにはご不自由をおかけしております。従前に実施しておりました小学生1・2年生の「生活科体験学習」及び幼児向けの「団体指導」にかわるものとして以下のプログラムを5月より実施しております。



「小学校1・2年生の団体指導」



小学校1・2年生向けのプログラムは現在5つあり、その中から児童さんが好むプログラムを先生に選んでいただき予約をします。

1. ミミナガヤギと遊ぼう【家畜の原種ゾーン】

ミミナガヤギのミーちゃんにやさしくタッチングをしたり、当園で用意した餌（青草・ペレット）や自分で持ってきた餌（希望者）を与え、ヒツジとヤギはどこが同じでどこが違うかを知ってもらいます。



2. 動物公園を知ろう【動物科学館】

飼育係の一日、動物たちとどのように過ごしているのかを知ってもらいます。

3. 歯のお話【動物科学館】

動物の歯は食べる物（餌）によって大きさ、太さなどがさまざまです。そこで食べ物と歯の関係を具体的に知ってもらいます。

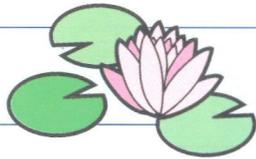
4. ウサギのお話【動物科学館】

ウサギのぬいぐるみを使い、産まれた国、赤い目、長い耳の働き等の話をし、実物の餌を見たり、上手に抱くにはどうすればよいのかを知ってもらいます。

5. ツノのお話【家畜の原種ゾーン】

サンタクロースのソリを引くトナカイはどのようにしてソリを上手に引けるのでしょうか、また、トナカイのツノの不思議について知ってもらいます。





「幼児の団体指導」



こちらにも現在5つのプログラムがあり、希望のプログラムを先生に選んでいただき予約をします。

1. ゾウのクイズ【動物科学館及び草原ゾーン】

動物科学館に常設のアジアゾウ骨格標本の前で、骨の絵にからだの輪郭を肉づけしてもらい、それをゾウ舎の前に持って行き、実物と見比べてもらいます。

2. トナカイのツノクイズ【家畜の原種ゾーン】

トナカイの前でツノの絵を描いてもらいます。ツノの成長や落角のしくみについて話をし、実物のツノを触ってもらい、ツノの左右やつきかたなどのクイズをします。

3. シマウマはどんなウマ？【草原ゾーン】

グレビーシマウマの絵のまちがいをさがして、たてがみやひづめ、尾などのパーツを正しいものに変えていくクイズをします。頭骨を見たり触ったり、草をすりつぶせる大きな歯や頑丈なあごを見てもらいます。

4. ペンギンのひみつ【鳥類・水系ゾーン】

寒いところで暮らすペンギンと、暖かいところでも暮らせるペンギンがいることを知ってもらいます。また、ペンギンの翼の形を見比べ、実際に水槽で翼の形に切り抜いたプラスチックの板を動かしてみ、すばやく翼を動かせるひみつを体験してもらいます。

5. アルマジロゲーム【動物科学館】

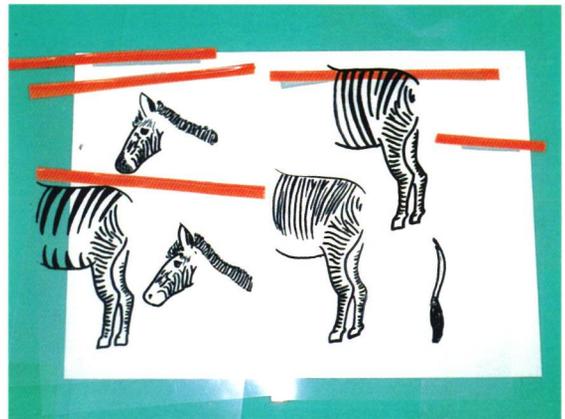
南アメリカに生息し、夜行性のアルマジロ、よく見るととても愛嬌があります。あまり目のよくないアルマジロを見たあと、アルマジロになった気持ちで目隠しをし、餌をうまく探し当てられるのか試すというゲームをします。



以上は、年長児向けのプログラムですが、3~4才のお子さんでも楽しめる遊びの要素を取り入れた「お絵かきシート」や「パズル型のクイズ」もあります。楽しんだ後のシートやグッズは、お持ち帰りいただけるものもあり、幼稚園や保育所に帰ってから、またお楽しみください。

秋からの遠足シーズンに向けて、プログラムを改良し新たなメニューを加えるなど準備が進んでおりますので、どうぞご利用ください。

林 まさ代 (Masayo Hayashi)
並木 美砂子 (Misako Namiki)



イ ワ ド リ



動物科学館バードホールで、1番目につく鳥はイワドリ（ペルーイワドリ）です。イワドリは南アメリカ産の鳥で、ギアナイワドリ、ペルーイワドリの2種が知られています。

ペルーイワドリは、コロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビアなどアンデス山脈の両側の熱帯から亜熱帯の密林に生息しています。雄は額からくちばしにかけて平で扇形に開いた冠毛を持ち、体は全体が濃く明るい紅色で、灰黒色の翼と尾をした美しい鳥です。雌【写真】は華麗な雄とは対照的に、くすんだ茶色の地味な鳥です。

イワドリは果実を主食としていますが、地上に降りて昆虫やトカゲなども食べます。当園では、トマト、バナナなどの果物と水で柔らかくしたマイナフード、ドッグフード、ゆで卵などを与えています。

春の繁殖期になると、雄は求愛の儀式を行うため、アレナと呼ばれる密林の中の開けた場所に集まり、奇妙な集団ディスプレイを繰り広げます。雌がアレナに来ると頭を左右に振りながら両翼を広げ、ラッパのような声をだしながら、飛んだり跳ねたりして求愛のダンスを踊りだします。雌はその中から、1羽の雄を選びだし、離れた場所で交尾をします。雄は交尾を終えると、次の相手を求めてアレナに戻ってきます。雌は岩穴や崖の岩下などに、草や根を泥で固めてツバメの巣に似た巣を作り、ハトの卵より少し大きい黒っぽい斑点のある白い卵を2ヶ産みます。卵は約28日で孵化し、巣立ちまで30日位かかります。抱卵、子育ては雌のみで行います。

飼育下での繁殖は少なく、1987年に国内では初めて当園にて繁殖しました。その後、繁殖には至りませんでした。昨年、新たに若いつが番いが新着し今後の繁殖が期待されます。

柴海 邦成 (Kunishige Shibakai)

「 偏食のオランウータン 」

1998年8月31日、日本モンキーセンター所有の雄のオランウータン（フトシ）が、長崎鼻パーキングガーデンよりブリーディングローン【2ページのトピックスをご覧ください】によって、当園の雌（ナナ）のもとに婿入りしてきました。

このフトシ君は大変な偏食で、好きな食べ物はいくらでも食べますが、嫌いな食べ物の方が多いので困ります。好物はバナナ、トマト、パン、煮たサツマイモで、それ以外はほとんど食べず、中でも生サツマイモ、ニンジン、キャベツ、小松菜などは、来園から約2年たった今でも全く食べずに遊び道具です。また、季節の食べ物で、イチゴやブドウを与えますが、食べる物ではないとも思っているかのように、外にだしてしまいます。これは、生後離乳してからの幼い時期に、いろいろな食べ物を与えられなかったのではないかということが一つ考えられます。それにしても、もう少し食べてくれれば…と思うのですが、オランウータンはチンパンジーやゴリラに比べ、格段に頑固者のようで、嫌いな食べ物を食べさせるといことはかなり難しいようです。また、来園当初より少しやせ気味なので、好物の量をおさえ、あまり好きでは



ない餌も食べさせ、バランスのとれた給餌をするのですが、どうしても全体の給餌量が減ってしまいます。そのさじ加減が非常に難しく、いつも頭を悩ませています。

余談ですが、フトシ君が婿入りして早約2年ですので、そろそろ2世誕生が待ち望まれます。

中村 智行 (Tomoyuki Nakamura)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'00年4月1日～'00年7月31日

- 4月 3日 子ども動物園改修工事のため、本日より平成13年秋まで閉鎖
- 4月 10日 子ども動物園改修工事に伴ない、ウシ、ウマ、他99点、動物交換で搬出
- 4月 23日 「ワンポイントウォッチング」開催（フタコブラクダ）（講師 飼育課 鈴木）
- 5月 3日 「親子で学ぶ動物教室」開催（卵のひみつ）（講師 動物公園 宗近園長）



- 5月 5日 「親子で学ぶ動物教室」開催（ウンチのお話）（講師 動物公園 宗近園長）
- 5月 7日 「親子で学ぶ動物教室」開催（鳥の不思議）（講師 飼育課 秦課長）
- 5月 11日 ヘビクイワシ（1羽）、自然孵化（12日にも1羽）
- 5月 12日 ヒオドシジュケイ（4羽）、自然孵化
- 5月 14日 「愛鳥週間特別講演会」開催—里山の鳥・干潟の鳥—（講師 日本野鳥の会千葉県支部支部長 志村英雄氏）



- 5月 18日 ツアーガイドの団体指導、本日より開始

- 5月 21日 「ゆかいな森の音楽会」開催（演奏 千葉市管弦楽団）



- 5月 22日 グレビーシマウマ（6頭）、日本脳炎予防接種
- 5月 28日 「ワンポイントウォッチング」開催（ニホンザル）（講師 飼育課 横山）
- 6月 5日 ハートマンヤマシマウマ（雄1、雌1）、繁殖用貸与で伊豆バイオパークへ搬出
- 6月 6日 第109回関東東北ブロック動物園技術者研究会に牧野係長出席（東京都多摩動物公園にて）
- 6月 9日 ハシビロガモ（2羽）、人工孵化
- 6月 10日 「アニマルスクール」開催一卵のなかみー（講師 飼育課 伴野）
- 6月 13日 カムリバト（1羽）、自然孵化
- 6月 16日 中学生職場訪問（千葉市立川戸中学校、4名）
- 6月 25日 「ワンポイントウォッチング」開催（カリフォルニアアシカ）（講師 飼育課 伊藤）
- 6月 26日 オセロット（雌1）、繁殖用貸与で横浜市立よこはま動物園へ搬出
- 7月 3日 東京都恩賜上野動物園へ貸出中のニシローランドゴリラ（モモコ）、無事出産で記者発表する
- 7月 10日 NHK、ゴリラ撮影取材あり（7月15日放映）
- 7月 21日 日本獣医畜産大学学生（村中）、本日より飼育実習開始（8月5日まで）
- 7月 25日 第16回サマースクール開催（27日まで）
- 7月 28日 中学生職場訪問（千葉市立高浜中学校、4名）

小林 正典（Masanori Kobayashi）

編集後記

今回から裏表紙の地図の欄に「催し物一覧」と題し、向こう3ヶ月間のイベント案内を掲載いたします。各イベントとも工夫を凝らし内容も充実させておりますので、ぜひご参加ください。なお、詳細につきましては、紙面の都合上詳しくご案内できませんので、動物公園（☎043-252-1111）までお問い合わせください。どうぶつこうえんニュース次回発行予定は、平成12年12月1日です。

（白井 剛）



ニワトリ（ブラマ）



Information

9月～11月
までの
催し物一覧

- ★ 9月 17日㊦ ワンポイントウォッチング（ボルネオオランウータン）
- ★ 9月 24日㊦ 動物愛護月間特別講演会（コウノトリ野生復帰への挑戦）
- ★ 10月 15日㊦ 折り紙教室
- ★ 10月 22日㊦ ワンポイントウォッチング（ダチョウ）
- ★ 11月 3日㊦ ZOOクイズラリー
- ★ 11月 11日㊦ アニマルスクール
- ★ 11月 12日㊦ 写真コンクール表彰式及び記念講演会
- ★ 11月 26日㊦ ワンポイントウォッチング（ヤケイ類）